



4 植 生

本県の自然植生は、暖温帯要素と冷温帯要素とが入り込み、日本列島における自然植生の移行帯として、極めて重要な地理的位置にあります。

本県における植生帯は、若狭湾沿岸地域を中心とする標高200mまでのイノデタブノキ群集とヤブコウジースジダイ群集を主とする照葉樹^{*1}林や標高800m以上の山地、特に奥越山岳地帯を中心とする日本海型ブナ林であるオオバクロモジブナ群集によって代表される夏緑広葉樹林^{*2}とによって特徴づけられ、学術的にも貴重な自然林となっています。

5 動 物

野生鳥獣の生息状況は、本県に2,000mを超える高山帯がないことや、延長410kmに及ぶ海岸線を有するものの干潟が少ないことなどにより、高山性の鳥獣や日本列島を縦断するシギ、チドリ類の飛来は多くありませんが、森林性の鳥類の種類は比較的多様性に富んでいます。

特に、本県で記録される鳥類のおよそ3分の2は冬鳥、夏鳥などの渡り鳥で占められており、本県が日本海側における重要な渡来経路に当たることを示しています。

第2 社会条件

1 人 口

本県の人口は、昭和40年には、750,557人でしたが、その後順調に増加し、平成7年には826,996人（8.10.1現在の推計値は、828,249人）に達しています。

年齢別構成をみますと、平成7年では年少人口（14歳以下）が17.0%、生産年齢人口（15～64歳）が65.2%、老年人口（65歳以上）が17.7%となっていますが、平成17年度には県民の4.6人に1人が高齢者となることが予想されます。

2 経 済

(1) 県内総生産

平成6年度の県内総生産（県内で生産された価値の総額）は、市場価格による名目で3.0兆円、平成2暦年価格による実質（物価上昇の影響を取り除いた価格）で2.9兆円となっています。

（*1）照葉樹：常緑広葉樹のうち、葉に光沢のあるシイ・クスノキ・ツバキなどのことを言う。

（*2）夏緑広葉樹林：ブナ・オオバクロモジなど冬季には落葉する植物からなる樹林。福井県内の夏緑広葉樹林は、照葉樹林の二次林として発達するクヌギ・コナラ林と、夏緑林帯の自然植生として発達するブナ・ミズナラ林で代表されるとされているが、単調なものではなく、トチ・イタヤカエデ・ナラなども多様に混在しています。